

実社会の課題解決を参考に、「自分なりの問い」を立てる

2年間をかけて、自分で「問い」を立て、それを探究していくカリキュラム。1年次は、1年間をかけて「自分なりの問い」を立てる。よりよい「問い」を考えるために、本教材を活用し、実社会の課題解決を参考にさせた。2年次では、その「問い」に対して実践的に探究を深めていく。

対象：1年生 320名
8クラス 普通科

■ 年間カリキュラム

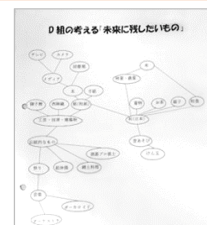
- 総合的な探究の時間（35時間）
- 活用テーマ：導入、まち、伝統継承、共生、まとめ
- 学校テーマ：問いを立てる
 - ・ 2年次で年間を通して探究する個人探究に向けた、「自分なりの問い」を立てる。



本教材を活用して、「探究とはどのようなものか」具体的な実社会の課題解決を参考にさせた。当たり前のように過ごす日常生活には、実は課題解決があったこと、身近なところにも課題があることなどに気づかせ、身の回りに目を向けさせた。その後、興味・関心のあることについて自分で資料を探索させ、「自分なりの問い」を立てる活動に入った。

活用のアドバイス

テーマ「伝統継承」には、「自分の地域の引き継ぎたいもの」について考えるチャレンジがあり、それを夏休みの宿題として取り組ませました。初めての探究での「自分なりに調べる」課題でしたが、授業で「やり方」を指導していたので、例年以上に内容の濃く、バラエティに富んだ成果物が集まりました。夏休み後に、学年で共有を行うことで、「様々な身近な課題」があることをとらえなおす機会にもつながりました。



■ 探究エピソード紹介

実社会の課題に気づかせるために…SDGs

「よりよい問い」を考えさせるためには、実社会の現実と直面させたり、課題解決の「今」を知ることが欠かせません。本教材の活用後には、中高生新聞を提示したり、「SDGsのキーワードで関連記事・書籍を検索できるシステム」を活用させたりして、世界が目指す共通のゴールをとらえ、その中で自分がどんなことに興味・関心があるのかを考えさせました。



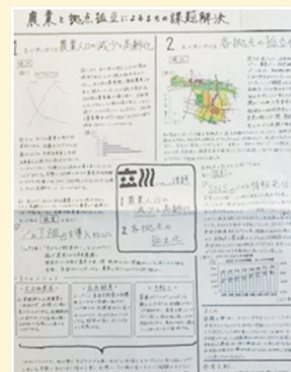
↑ 大学教授による講演会の様子

探究担当 石田先生から『探究』へのアドバイス！

探究の時間に指導したいことの究極は、「自分で問いを立てる力」を身に付けさせること

「言われたことはきちんとやる」けれども「自分で問題意識をもってやる」生徒は少ないと感じています。つまり、「調べる」のは得意だけれども「深める」が得意ではない。このような生徒たちに、「へえ」で終わるのではなく、自分で考える、つまり「問い」を立てる力を付けさせたい。そのためには、「そういう考え方があるのか」と実社会に触れさせるとともに、「自分だったらどう考えるか」という経験を積ませることが必要です。これは、探究の時間だからこそ指導できることだと考えています。

またこのように、身近な問題や実社会の課題に対して「自分はどうか考えるか」を深めていくことは、「自分の生き方を考える」ことにつながると考えています。



↑ 大学入試対策で活用した本教材で学んだ「考え方」

